

長浜城歴史博物館協議会議事録

平成21年1月26日(木) 15:00～

出席者：嶋田委員・岡田委員・大橋委員・小和田委員

館長・森岡・太田・北村・橋本・山口

15:00開会

司会：北村

司会：それでは定刻になりましたので、ただ今から平成20年度第2回長浜城歴史博物館協議会を開会いたします。皆様方にはご多用のところをご参集賜り厚くお礼申し上げます。私は本日の司会を担当いたします北村です。どうぞよろしくお願いいたします。委員様の行事の都合や体調不良等で欠席がありますが、博物館管理規則第11条第5項「協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。」の過半数の出席をしていただいておりますので開催します。長浜城歴史博物館館長の中島からあいさつもうしあげます。

館長：本館の運営にご協力いただきありがとうございます。昨日までのお天気とは違っていい天気になってよかったと思っております。また、本日はいつもより遅い時間に開催することになりましたが、終了時間16時30分ごろを予定しております。現在は、2階展示室では「八木奇峰とふたりの師匠」3階展示室では「湖北の深き信州文化 オコナイと真宗の民俗文化からー」を開催しておりますので、講評をいただければ幸いです。

司会：ありがとうございました。それではただいまから議案審議に移りたいと存じます。議長の選出ですが、条例第10条の3に「会長は、会務を総括し会議の議長となる」とありますので、嶋田会長に議長をお願いいたします。それでは嶋田会長をお願いします。

議長：それでは、議事に入らせていただきます。本日は、インフルエンザ等で過半数ギリギリの協議会となりましたが、終了時間16時30分となっておりますのでよろしくお願いいたします。平成20年度事業下半期事業の企画展からお願いします。

森岡：それでは、展示室へ移動をお願いします。

～2階・3階展示説明～

議長：企画展の講評をお願いします。

大橋委員：狭い空間をつかしながら、うまく展示されているな。と感心した。山縣岐鳳の時も感じたことだが、長浜曳山に関係しすごい画家が出たんだなとつくづく思った。大通寺の因講や二十八日講のことをほとんど知らなかった。「廃仏毀釈」があってもお寺のみなさんが努力されたんだろうと想像した。長浜だけでなく近隣をまきこんでの信仰が盛んだったことがわかった。

議長：宿泊場として、真宗の普及(お説教)の施設になっていた。

小和田委員：「講場」は、現在も何かに使われているのか。

橋本：建物はあるが、組織自体もたないので使われていない。

議長：「講場」は宿泊施設であり、交通機関の発達に伴い宿泊の必要がなくなりすたれていった。

大橋委員：3階展示と企画展「八木奇峰」の展示で流れを組み入れて展示されているのでよくわかった。

小和田委員：「オコナイ」が姿を消していくのが残念で仕方ない。

館長：なかなか「オコナイ」が指定文化財になりにくい。地元の人が文化財指定を受入れないという問題がある。現在、オコナイの特徴として簡略され、本来のやり方を行わない。ゆっくり楽しむという雰囲気は余りない。

議長：それでは、次の議題へをお願いします。

橋本：下半期報告(博物館事業・友の会事業)

北村：補足資料として開館以来からの入館者数です。

議長：今の説明で何かありましたらお願いします。

小和田委員：京都大学の連携事業はどういういきさつで行うことになったのか。

太田：平成 15 年特別展くらいから京都大学と一貫することについて研究するようになっていった。理学部の先生が多い。昨年 1 月ごろから大学の地域貢献として長浜市と京都市とで提携していきたい。という申し出があった。長浜市と京都大学（人間環境学研究科）が提携して、いろいろな事業を行うということで、今回長浜城で行った。この事務局は長浜市企画調整課にある。本体としては、「風雅のまちづくり」ヨーロッパの街並みの発想を取り入れて行きましょう。その現状のまちづくりの研究のフィールドということで長浜が選ばれている。

議長：館長から何かありますか。

館長：入館者については、なかなかしんどい現状である。しかし、11月は例年より増えている。それは特別展を開催したことで入館者が増えた。展示内容によって入館者数が変化することの証明にもなる。ただし、管理原課としては、他の施設の状況も見なくてはいけない。長浜城や浅井歴史民俗資料館については、展示替で入館者を増やすことができることがわかったが、曳山博物館については、年中曳山を展示しているのでそういうわけにはいかないという問題点を抱えている。曳山自体は毎年展示を変えているのだが、見る人によっては、同じ曳山に見え、曳山博物館はいつも同じ展示だ。ということになってしまうことが入館者数に影響している。長浜城は 14 万人を達成し、県内 2 番目をキープしている博物館であるが入館者の伸びには悩まされている。いろいろなイベントを行って増やすようしているが、基本的にはいい展示を行うことが一番入館者数へつながる。手前味噌だが、長浜城の展示の基本は、2 本立としている。例えば大河ドラマを意識した入館者を増やすための展示。入館者は極端に多くは見込めないが地元を中心とした研究的な展示の組み合わせとしている。とはいえ本館としても入館者がこの不況でいつまで続くか不安をいただいている。この前のお正月に帰省しない人が増えているということだが、このような状況が起こっているなか、文化の力がどこまで発揮できるか課題である。

小和田委員：この不況で入館者数の影響はどのくらいあるのか。

北村：入館者の傾向として、現役勤労者、ファミリー旅行者は落ち込んでいる。年金受給者の団体が維持している状況である。

議長：それでは 21 年度計画についてお願いします。

橋本：特別展、企画展事業計画について説明

小和田委員：下郷共済会の直江状は展示されるのか。

太田：ゴールデンウィークに展示する予定です。

小和田委員：大々的に宣伝しアピールするべきである。

議長：それでは、時間も押し迫ってきましたので、これをもちまして第 2 回博物館協議会の全ての議事を終了いたします。慎重にご審議いただき提案事項いずれも議案どおり決議いただきました。議事進行につきましては、皆様のご協力により無事職責を果たすことができました。誠にありがとうございます。これで議長を退任させていただきます。

司会：嶋田会長ありがとうございます。また長時間ご審議いただきありがとうございます。引き続きまして資料の内覧にうつりたいと思います。

内覧会資料

- ・本願寺 下間家に伝わった火縄銃（小筒）
- ・本朝名将百図等

館長：終わりのあいさつ